

イベントのご案内

蚕糸の日2026フォーラム

「蚕糸の日2026フォーラム」につきましては、
応募者多数につき受付を終了いたしました。たくさんのご応募ありがとうございました。
なお、フォーラムの様子は講演録や動画として蚕糸会ホームページにて公開予定です。

かつて我が国は生糸の世界最大の生産・輸出国でしたが、輸入生糸の増加や国内の和装需要の減少を背景にした繭・生糸価格の低迷により、農家及び製糸業は大きく減少し国内蚕糸業は消滅の危機にあります。

今回のフォーラムでは、この様な状況を多くの方々に知っていただき、蚕糸業が産業として持続できる方策を探っていくことを目的としています。

記念講演「神宮式年遷宮と御料生糸」及びパネルディスカッション「日本の蚕糸業が消滅してもいいの？」を通じて、様々な方に国内蚕糸業の歴史的・文化的価値にもご理解を深めていただき、応援していただけることを願っています。

日 時 令和8年3月13日（金）13：00～16：00

※スケジュール詳細は裏面をご覧ください。

場 所 東京ウイメンズプラザ ホール（B1階）

※会場詳細は裏面をご覧ください。

参加費 無料

参加申込 こちらへ→<https://forms.gle/SWknTyP8w9rrha6z8>



令和8年3月6日（金）までに上記URLまたはQRコードからお申し込み下さい。

なお、上限人数（240名）に達しましたら締め切らせていただきます。

主 催 一般財団法人大日本蚕糸会（HP：<https://silk.or.jp/>）

一般社団法人日本サテナブルシルク協会（HP：<https://www.silkworkers.net/>）

開催スケジュール

1. 開会及び主催者からの趣旨説明 13:00~13:15

2. 記念講演 13:15~14:15

「神宮式年遷宮と御料生糸」

伊勢神宮 神宮式年造営庁 神宝装束部 神宮技師 宮本 史典 氏

(休憩 30分)

3. パネルディスカッション 14:45~15:45

<テーマ> 「日本の蚕糸業が消滅してもいいの？」

<パネリスト> 芦澤 洋平 氏 養蚕農家・一般社団法人日本サステナブルシルク協会代表

今泉 宜子 氏 明治神宮国際神道文化研究所主任研究員

合瀬 宏毅 氏 一般社団法人アグリフューチャー・ジャパン代表理事理事長

工藤 操 氏 一般財団法人消費科学センター企画運営委員

高林 千幸 氏 岡谷蚕糸博物館-シルクファクトおかや-館長

<コーディネーター>

国見 裕久 氏 東京農工大学名誉教授

4. 閉会 15:45~16:00

会場

東京ウイメンズプラザ ホール (B1階)

住所：東京都渋谷区神宮前5-53-67

TEL：03-5467-1711

URL：<https://www.twp.metro.tokyo.lg.jp/>



記念講演「神宮式年遷宮と御料生糸」

伊勢神宮 神宮式年造宮庁 神宝装束部

神宮技師 宮本 史典 氏



伊勢神宮には内宮にも外宮にもそれぞれ東と西に同じ広さの敷地があり、式年遷宮は20年に一度^{みやどころ}宮処を改め、古例のままに社殿や^{おんしょうぞくしんぼう}御装束神宝をはじめ全てを新しくして、大御神に^{にいみや}新宮へお遷りいただくわが国最大のお祭りです。

1300年にわたり繰り返されてきた式年遷宮は、20年に一度造り替えられる常に瑞々しいご社殿で、永遠に変わらないお祭りが行われることに大きな意義があります。平成25年には第62回目が古式のままに行われました。第63回式年遷宮は令和15年秋の最も重要な儀式「^{せんぎよ}遷御の儀」に向け、令和7年より関連のお祭りと行事が始まっています。社殿を造り替えるだけでなく、大御神の衣服や服飾品などの「^{おんしょうぞく}御装束」、武具、楽器、文具や日用品などの「^{しんぼう}神宝」を全て新しく作り替え、奉納します。その種類は714種、1576点にのぼり、宮本氏は美術工芸分野の専門技師として製作を担当しています。

講師紹介：

昭和49年、奈良市生。京都市立銅駝美術工芸高等学校日本画科、多摩美術大学美術学部絵画科日本画専攻を卒業後、平成10年に伊勢神宮(神宮司庁)奉職。以来、神宝装束部所属の神宮技師として伝統的工芸技術の保持者・研究者等と連携しつつ、式年遷宮に伴う御装束神宝1576点の製作に一貫して取り組む。平成14年、皇學館大学神道研究所研究嘱託(同16年迄)、令和4年から神宮司庁文教部教学研究員を兼務。

パネルディスカッション「日本の蚕糸業が消滅してもいいの？」

養蚕農家は減少し続け製糸会社の稼働率も低下の一途をたどり、日本の美しい和装文化を支え産業発展の礎を築いてきた蚕糸業は消え去ろうとしています。その最大の理由は、国産繭の価格が生産コストを大幅に下回るという問題です。パネルディスカッションでは、多くの消費者が気づいていない蚕糸業の現状と、国内で育まれてきた多様な蚕品種から生まれる高品質な生糸の歴史的・文化的価値について、掘り下げていきます。

このパネルディスカッションを通じて皆様の理解を深め、国産繭・生糸製品が合理的な価格で取引される環境をいかにして創出していくかについて、その具体的な道筋を皆様と共に探求したいと考えています。歴史と伝統ある蚕糸業の灯を消さないために、ぜひご参加ください。蚕糸業を未来へ繋ぐために、あなたの参加が必要です。

パネリスト・コーディネーター紹介：

芦澤 洋平 氏

山梨で150年続く養蚕農家6代目。
国内最大規模の繭生産量と多角的な販路を推進。



絶対に蚕糸業を絶やしてはならん！と(一社)日本サステナブルシルク協会を設立。持続可能な絹文化を求め、最近は地域と養蚕をつなぐ方法を模索中。

今泉 宜子 氏

東京大学教養学部卒業後、雑誌編集者を経て明治神宮に奉職。著書に『明治神宮 伝統を創ったプロジェクト』等。平成30年から昭憲皇太后大礼服研究修復復元プロジェクトの一員として宮中礼服の調査と保存に携わる。現在、秋に開催する展覧会に向けて聖徳記念絵画館壁画「富岡製糸場行啓」の制作経緯を調査中。



合瀬 宏毅 氏

山口大学経済学部卒業後、NHK入局。経済番組のプロデューサーを務めた後「食料・第一次産業」を中心とする経済問題担当の解説委員。平成29年解説副委員長。令和2年アグリフューチャージャパン副理事長、令和4年より現職。農政ジャーナリストの会会長、食料・農業・農村審議会委員等を歴任。



工藤 操 氏

当会は「消費者による、消費者のための消費者教育」を掲げ、活動を続けております。生産者からお話を聞き、現地を見学させていただくなかで、モノが暮らしに届くまでの過程や生産状況を学びます。そしてただ利用するだけの消費者ではなく、共にできることもあるのではないかと考えております。



高林 千幸 氏

昭和48年より、国の研究機関において製糸技術開発およびシルク新素材の開発に従事。平成23年岡谷蚕糸博物館長に就任。岡谷シルクブランドの推進に尽力。蚕糸絹文化の継承・発展に注力している。繊維学会賞・日本蚕糸学会賞・日本シルク学会賞・大日本蚕糸会蚕糸功績賞等受賞。東京大学農学博士。



国見 裕久 氏

東京農工大学農学部卒業後、東京都蚕糸指導所を経て東京農工大学に奉職。東京農工大学農学部長、理事・副学長を歴任。カイコを含むチョウ目昆虫の病理学の研究に従事し蚕病対策に貢献。日本応用動物昆虫学会賞、蚕糸功績賞を受賞。一般財団法人大日本蚕糸会評議員。東京農工大学名誉教授。

